

第2回柏原市総合計画審議会議事録要旨

日 時	令和元年 12 月 27 日(金) 午前 10 時から午前 11 時 30 分まで
場 所	柏原市立男女共同参画センター会議室 (柏原市役所別館 3 階)
出 席 者	(柏原市総合計画審議会委員) 新子委員、石川委員、鴨田委員、阪本豊子委員、重森委員、新屋委員、 田井中委員、高山委員、鶴田委員、寺田委員、畠山委員、早川委員、 松井委員、松尾委員、森岡委員、山口委員、山下委員 (50 音順)
欠 席 者	久米委員、阪本幸重委員、芝野委員、田中晃代委員、田中一史委員、谷口 委員、辻野委員、中谷委員、西川委員、文能委員 (50 音順)
事 務 局	市川政策推進部長、山口総合政策監、小林政策推進部次長、 山本企画調整課長、中嶋企画調整課課長補佐、松田企画調整課主務 (株)ぎょうせい 山野氏、中村氏、齋藤氏
傍 聴 者	なし
会議次第	1 開会 2 柏原市の現状と人口見通しについて 3 第4次柏原市総合計画施策評価について 4 “柏原市の未来”を考える市民ワークショップの報告について 5 柏原市総合計画基本構想(検討案)について 6 その他 7 閉会

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員交代について紹介 ・ 審議会成立を報告 ・ 資料確認
高山会長	<p>2 柏原市の現状と人口見通しについて</p> <p>それでは、次第に則して進めて行きますので、説明を事務局からお願いできますでしょうか。</p> <p>(事務局 「柏原市の現状分析」、「柏原市将来人口の見通し」について説明)</p>
高山会長	<p>ありがとうございました。ただいまの未来への人口見通し等に関する動向につきまして、質問・御意見等がございましたら、よろしくお願ひします。資料を開くのもなかなか難しいかもしれませんが、どうぞ。お時間をとりますので、何かありましたら。よろしいですか。人口推計等に関しては、よろしいですか。</p>
早川委員	<p>確かに世間で言われているような、少子化などの問題がいろいろ出ているのは分かりますが、人口減の主な原因に対してどのような対策があるのか、その辺でどのように市が考えておられるのでしょうか。私は、商工会として出席しておりますが、ご存知のように、いわゆるシャッター通りなど、いろんな問題が出てきています。いわゆる生活面やその辺のフォローがどうであるかなど、いろんな問題があるかと思いますが、その辺りに関して、市としての何か対策の考えはあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>これまでも、平成27年からは先ほど申し上げました「まち・ひと・しごと創生総合戦略」でこの問題には取り組んでおります。特に本市の場合、今回の資料にもございましたとおり、いろいろな取組をする中で、社会増減の方が改善しつつあります。転入の方が増えて、転出の幅が少し小さくなっています。ただ、自然増減が問題です。死亡の方が増えて、出生が減っている。そこは非常に問題点とも考えておりますので、取組としては、若い世代の方にたくさん入ってきていただきたい。柏原で子どもを産んでいただいて、人口が維持できるような体制が必要です。もう一つは高齢者です。今も4分の1以上になっていますが、さらに高齢者が増えるという状況ですので、高齢者の方の健康を維持して、長生きをしていただく部分を特に課題として捉えながら、いろいろな施策を検討しているところでございます。</p>
早川委員	<p>私は商工会会長をさせていただいていますが、確かにいろんな声が出てきます。特に商店、小売業などの閉鎖が多い。そのために、商工会の会員数も減ってきています。それに通じる話として、例えば買い物をするにしても、柏原で買い物をするには、少し無いものがあるというよう</p>

	<p>な意見が出ています。ですので、そのあたりのことも見直していかないといけないと思います。やはり、柏原市内へお金を落とすよりも、市外でお金を落とすという部分が、かなり大きくなってきているような感じもしますので、新しい企業家の方など、商店に対して予防策となるものの中で、充実した形に持っていかないといけないと思います。流入してくる人口というのは、その辺のこともかなり考えられて流入してくることもあると思いますので、少し市の方でそのことも考えていただければという感じがします。商工会も、何とか商店が閉まることを防ぎたいと思って活動はしていますが、なかなか上手く行っていないというのが現状です。ですので、このようなことも優先的に考えていただければありがたいかなと考えております。</p>
事務局	<p>御意見ありがとうございます。いま、おっしゃっていただきましたとおり、商店との取組では、市の担当部署でもそのような取組を少しずつ深めながら、いろいろな連携をしていきたいということで進めていますので、さらに今の御意見を参考にしながら、取り組んでまいりたいと思います。</p>
早川委員 高山会長	<p>余計なことと言って申し訳ございませんが、お願いしておきます。 どうもありがとうございました。そのほかはいかがでしょうか。どうぞ。</p>
鶴田委員	<p>第5次総合計画の策定に関する2回目の会合です。第4次に私も関わらせていただいております。第3次から第4次、第4次から第5次と10年スパンで計画が策定されていますが、第4次の総括的な部分なのか、第4次に将来見通しも立てたと思うんですが、その中で柏原の人口推移がほぼ予測したとおりなのか、すごく減ってるのか、どうなのかということが一つ、そして人口設定もいろいろする中で、中身ある総合計画を策定しなければならない責務はあろうかと思いますが、その辺の状況というか、お考えについてお伺いしたいなと思います。</p>
高山会長	<p>今の御質問ですが、次の第4次総合計画施策評価のところで行う形でどうでしょうか。事務局の方、そこでまとめてお話をする形でどうでしょうか。 そのほか、いかがでしょうか。 1点のみ、私の方から確認したいのですが。国、大阪府、柏原市の3つで、人口減少速度はどこが一番早く減っているのでしょうか。大阪府内でも、茨木市はまだ人口は減っていません。むしろ増加傾向が若干ありますので、地域によって違うと思います。その辺、速度という点で見ると、国、大阪、柏原市ではどのような動きになりますか。早い、遅いの感覚で結構です。</p>
事務局	<p>企画調整課の中嶋です。今の国、大阪府、柏原市の人口減少速度ですが、今の状況で言いますと、5年前に国がまち・ひと・しごと創生総合戦略を作ってから、国自体は大幅な減少というところまではいっておら</p>

高山会長	<p>ず、減少傾向にある状況です。その次が、府です。柏原市が今のところ減少幅が一番大きい状況になっております。この推計ですが、資料をきちんと見ていない状況ではありますが、全体的に減少するという点は、国も府も市も同じ形になっています。その中で、各地域によって違いがあり、東京一極集中ということで、東京など都心の方では人口増が一定期間はあるという感じですが、国としては全体的に減っていくという状況となっている中で、柏原市はかなり減少幅が大きい方だと社人研の推計はなっていたと思います。</p> <p>どうもありがとうございました。またほかにありましたら、あとで改めてお聞きしますので、次の3の方へ進みたいと思います。</p>
高山会長	<p>3 第4次柏原市総合計画施策評価について</p> <p>では、「第4次柏原市総合計画施策評価」について、事務局よりよろしくをお願いします。</p>
高山会長	<p>(事務局 「第4次柏原市総合計画施策評価」について説明)</p> <p>それでは、審議に入りたいと思います。質問等ございましたら。鶴田委員、何かもしありましたら。よろしいですか。</p>
事務局	<p>先ほど鶴田委員の方から御指摘のございました、人口推移のことでございます。第4次総合計画の中では、目標人口を80,000人に設定をしており、これは実績として2007年、2008年、2009年の実際の人口約75,000人だったものを基に、2020年を目標として位置づけた経緯がございます。おおむね人口を設定するにあたっては、2020年まで、2009年の時点から見まして右肩上がり人口が増えていくだろうという予測のもと、作っていました。ただ、この2008年、2009年ごろには少し人口も減っていたという状況もありますが、実際にその後、特に先ほど申し上げた平成27年の人口ビジョン等を作ったときには、既に大きく下がりつつありましたので、実際に第4次からは、かなりかけ離れた人口数となっています。そのようなことも踏まえて、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンでは、大きく減少するような推移で出しました。今回の第5次における人口の推移のところでもそうですが、そのあたりは実績として捉える必要がございます。それを捉えつつも、本市としては人口を少しでも維持したいという思いの中で見込んでいますが、今の人口を確実にそのままの状態に維持するのは、当然難しいところですので、少しでも減らないような対策を考えておるものでございます。以上です。</p>
高山会長	<p>そのほか、いかがでしょうか。現状の評価となるわけですが、行政の側からの評価と市民目線の評価で、もしかしたら異なるかもしれませんし、満足度は違うかもしれません。その辺の御意見がありましたら、どうですか。</p>
重森副会長	<p>関西福祉科学大学の重森と申します。1点質問ですが、第4次の計画</p>

事務局	<p>があって、今度は第5次の計画ということですが、例えば、低い目標が明らかになってきたというところで、この低い項目を第5次に向けて大きく軌道修正したような内容とか、そのまま低い目標を変えなかったのかなどの、低い項目について教えていただきたいと思います。</p> <p>目標は、いま施策評価して出しておりますが、この点については、この後に基本構想のお話をさせていただき、さらに小さなそれぞれの分野ごとに分けた基本計画を作るということになっています。これは、前回策定方針の時にお話させていただいております。もちろん基本計画を作る際には、この施策評価の低かった部分をどうするのかを考えます。基本構想では大きな意味でまちをより良くするというので、伸ばすという方向性が当然あると思いますが、さらに細かい、どの部分をどうしていくかということを考えながら、この基本計画を今後は立てていきます。また、その中で、担当課、あるいは担当課が幾つにも分かれる、あるいは横断的にしないといけない部分も出てきますので、この基本計画を作成するに当たっての施策課題等の最後の掘り起こしと、その課題への対応策を立てるときに、もう一度再検討して行きます。今後、年明けぐらいからその部分を行い、基本計画のときに、再度委員の皆様にお示しする形になるとお考えいただきたいと思います。</p>
高山会長	<p>ありがとうございます。御質問等はよろしいですか。最後の柏原市の基本構想案で再び全体的な議論ができると思いますので、続けて4番の方に入っていきたいと思います。よろしくお願いします。</p>
高山会長	<p>4 “柏原市の未来”を考える市民ワークショップの報告について (事務局 「“柏原市の未来”を考える市民ワークショップの報告書」について説明)</p> <p>ありがとうございます。では、この報告書につきまして、何か質問等ございましたら。よろしいですか。 (質問・意見なし)</p>
高山会長	<p>5 柏原市総合計画基本構想（検討案）について</p> <p>それでは、次の基本構想の案についての方に進めていきたいと思えます。そこで、全体の議論をしていただければと思いますので、よろしくお願いします。では、説明をお願いします。 (事務局 「第5次柏原市総合計画基本構想（検討案）」第1章について説明)</p>
高山会長	<p>これがランドデザインになるところでして、柏原に住んでいる市民が共有する目標あるいはスローガンになっていくもので、ここがベースとなりますので、ここからまず議論したいと思えます。今、説明を受けて、新しい第5次の言葉、スローガンについて、議論していきたいと思えますが、議論の中でほかに御意見があったのかどうか、参考までにお</p>

事務局	<p>聞かせ願えればと思います。</p> <p>今、出しているキャッチフレーズについて、長いものになっておりますが、庁内で検討する部長級で作った委員会があり、こちらに意見等を照会したところ、本来であれば短いキャッチフレーズの方が逆にいいんじゃないかという意見もありました。もっと短く、柏原の「原」を「笑」にして、60周年のときのロゴのように、そこだけを捉えて「みんなが笑顔 柏笑」といった短いキャッチフレーズでもいいのではないかという意見も出されておりました。</p>
高山会長	<p>今のことを踏まえて、何かこのスローガンについて、皆様から御意見をいろいろいただければと思います。最初の「未来へと みんな笑顔で 生き生きつどう 住みやすいまち 柏原」というものをベースに、何か御意見ございましたらお願いします。</p>
重森副会長	<p>質問させていただきます。環境・経済・社会の三側面というところについて、環境が「みんな笑顔で」で、経済が「生き生きつどう」、社会が「住みやすいまち」の組み合わせでよろしいですか。</p>
事務局	<p>「未来へ」のところに環境・経済・社会という三側面を書いていて、今言っていたいただいた形で捉えていただくことはいいとは思いますが、この三側面というのは、SDGsの地方創生という部分で出されているもので、これら全部を統合して社会というのを創る、地域・地方を創生していく、より活力を創っていくと言われております。ですので、今、おっしゃっていただいたような個別での考え方もありますが、これは全てに通じるものであると考えております。</p>
高山会長	<p>よろしいですか。そのほか、御意見いかがでしょうか。</p>
鶴田委員	<p>スローガンなので、ふと思ったのですが、「未来へと みんな笑顔で 生き生きつどう 住みやすいまち 柏原」ではなく、「住みよいまち 柏原」のような方がしっくりするのではないかと思います。「住みやすい」という部分はどうかかなと思います。</p>
高山会長	<p>語句の修正も出ましたが、このキャッチフレーズでいくのか、もっと変えるのかといったこともありますので、御意見いただければと思います。前回の第4次は、「市民が生きいきとし にぎわいにあふれているまち 柏原」です。これだけ見ると、ほとんど今回のものと何が違うのかと思ってしまうのですが、ただ第4次の方が「自然と歴史を活かした個性あるまちづくり」として、自然と歴史というところで、柏原市らしさが少し入れてあります。柏原市民が共有すべき課題ですので、できるだけ私は柏原市民がなじむもの、あるいは「柏原だからこれでよかったよね」と言えるような、柏原色が出るものもいい気がするのです。しかし、その辺はいろいろな意見もありまして、長いものにすると言葉をどうするのかという問題もありますし、長いものもあれば、事務局の短案として出ましたように「みんな笑顔 柏笑」とスパッと短くすることで、共有しようとする方法もあります。「みんな笑顔」って何なのかというこ</p>

山口委員	<p>とは、市民がお互いに考えましょう。もしかすると、そのような捉え方もあるかもしれません。そのように短くするのか、あるいはもう少し柏原らしきを出すために言葉を入れてみたらどうかなどがあるかもしれません。皆さんのベースになるものですので、柏原市民として「この言葉を持ってこれから10年生きていきたいな」や「この言葉を守ってこれから10年このまちで過ごしたいな」と言えるようなものにしていただきたいので、積極的にいろいろな御意見をいただければと思います。</p> <p>タイムスケジュール的なこともあるので、決める期間なども決まっているとは思いますが、市民とワークショップもされていることですし、この部分について市民の意見を募集するようなことは考えておられないのでしょうか。</p>
事務局	<p>事務局の現状につきましては、この部分だけを捉えて市民の皆さんにコメントをいただくことは考えていませんでした。最後の方になってしまいましたが、パブリックコメントという形で考えていたのが現状です。申し訳ございません。</p>
山口委員	<p>わかりました。</p>
高山会長	<p>よろしいですか。どうぞ。</p>
新屋委員	<p>「生き活きつどう」の「生き活き」の漢字の使い方について、第4次 のときは「生き活き」の2番目は「いき」が平仮名になっていますが、 細かいですが、何か意図があるのでしょうか。</p>
事務局	<p>事務局として、特に意図ということ考えたわけではありませんが、 活力という部分を全面的に申し上げるための漢字と捉えていただければ と思います。事務局として検討する中で出てきただけで、「生き活き」の 「生き」の2つ目を平仮名にしていらないことについて、特別に意味合い を込めたという部分ではありません。</p>
高山会長	<p>フリーに、どんどん意見を出してください。</p>
田井中委員	<p>田井中と申します。中嶋課長補佐のお話について、少し戻るんですが、 「たまたばこ」と「ほっとステーション」の報告書の部分で一通り目を 通したところ、例えばお買い物などで満足されている方は、それなりに いらっしゃいますでしょうか。両方のアンケートを見させていただくと、 資料1の10ページ、先ほど中嶋さんの御説明がありましたグラフの転 入の状況と転出の状況です。確かに柏原市から大阪市の方に転入、ある いは転出している。仕事や学校にしても、キャパが大きいから数が多い のは当然だと思いますが、気になったのは八尾市が15.4%転入され ているが、下の転出を見たら13%になっている。転入はありがたいで すが、転出はもっと増えるのではないかと思います。最近、外環にアク ロスプラザという大きな商業ゾーンができました。私も、度々行きます が、周辺はものすごく土地開発をしていて、住宅が建つと思われま す。ここ数年に建つと思うのですが、そんなことを考えていたら、ま すます転出の方も増えるのではないかと思います。まして、本当に近いところ</p>

で転出が今でもこれだけありますから。それに対して、柏原市の方で「ほっとステーション」あるいは「たまたまぼこ」に参加された人の話を聞いてみると、満足している。別に大きな商業ゾーンは要らない。今で満足しているということです。ただ満足というのは、距離やあるいは交通環境ではなく、やはり駐車場の広さです。これも市民にとってはありがたいし、魅力なんです。まして、カテゴリーの多い商業、昔で言えば商店街です。その1カ所に行ったら、ワンストップで色々なものが揃います。あるいは、いろいろなものが見られるということです。こういう場所が柏原市には少ないと思うんです。そういう点を、この「ほっとステーション」では、重要視しておられるわけではないということです。一時的なものとはお聞きしているのですが、この商業活性化の方法を考えてただかないと、柏原市の予想を超えて人口が減少するのではないかという危惧を抱いています。そして、この頃私もアクロスへ行っているんですが、確かに柏原市の住民は、八尾市の沼にあるイズミヤやアクロス、あるいは藤井寺のイオンなど、比較的近いからさほど不便に感じていない。しかし、柏原市でそういう場所を作るという考えもしていただかないといけないと考えています。

高山会長
事務局

ありがとうございます。今の御意見に対して何かコメントがありましたらお願いします。

実際、子育て世代の方々とお話をする中で、現状の柏原市の子育て環境については、一定は良いと言ってくれていますが、私自身が両方のワークショップに行き、意見を直接聞いた感じとしましては、買い物環境に関して、出ていた意見として、ほぼ市外に出ているということですから、アリオの話や「たまたまぼこ」でしたら橿原のアルルであったり、イオンであるという状況です。最初に、早川委員からありましたとおり、市内の買い物環境の魅力というのが、大変重要になってきて、今後は市内にお金が落ちないことになってきます。これは市民の方もおっしゃっています。「私ら別に買い物環境別に困ってないよ。でも、八尾に買い物に行っているから、市内にお金落ちないよね」このような言い方をされてきました。その中で、田井中委員がおっしゃっていただいたとおり、商業圏と考えたときには八尾や藤井寺、奈良の橿原の商業圏域として柏原が成り立っている部分はありますが、それであれば、柏原にそういう商業がなくていいのかというと、そういうものではないと思います。ですから、もう一つの意見として出ていた部分として、買回り品を買えるところが少なくなっているということも、おっしゃっていた部分です。ですので、先ほど山本からお話させていただいたとおり、産業振興で言いますと、商業振興になりますけれども、市内商店街あるいは小売店舗の魅力づくりを支援する、そういったところの魅力活性化を支援することも当然必要になってくると、事務局としては捉えておりますし、今いただいた御意見というのは、産業担当部局に私

<p>高山会長</p>	<p>どもから伝えて、その中で基本計画に反映させていきたいと考えております。</p>
<p>早川委員</p>	<p>ありがとうございます。よろしいですか。そのほか、いかがでしょうか。どうぞ。</p> <p>確かに今、御意見いただいたことですが、いわゆる高齢化が進んでいることもあるのだらうと思います。しかし、いわゆるお年寄りの方々が特に買い物をするときには買いたいものがほとんどない。いわゆる商店街の充実性がやっぱり必要ではないかという感じはします。柏原というところは、皆さん御存じのように、治安の面においては大阪府下でもトップクラスであるし、自然環境もこれだけの環境があると。そうしたら、私も商工会の関係でいろいろさせていただいているのですが、何が必要なのかということです。これという案を、今は持っていませんが、年寄りの方に聞くと、「買い物に行っても何も揃わないし、遠いところまでいくのがしんどいので、どうしようかな」という声を、多々聞くことはあります。それと、先ほども申しましたように、いわゆるシャッター街というか、後継ぎがないことで、閉鎖するところがあるという考えも商工会では持っています。そして、地域の商店でもかなり高齢化しているところが多いので、後を継いでくれる人がいないということも一つの大きな問題点になっているような感じはします。いわゆる相乗効果として、何が必要かということになってきますけれども、やはり充実した、さっきおっしゃったように大型店が次々とできて、そちらへみんな流れてしまうようになってくると、いわゆる素通りのまちになっているということもよく聞きます。柏原を素通りして、柏原へお金を落とす人がいなくなってくるようなことも最近聞いたりしますが、そしたら、何が必要なのかということです。こういったことも考えていかなければいけないということで、我々商工会としても商店に関して様々なことを行っていますが、なかなか歯止めがかかるまで行っていません。これからは、市とタイアップして、十分に考えていきたいと思っています。我々もできる限りのことは行わせてもらいたいと思っていますが、相乗効果的なことを起こせるものに何があるかを、もう一度考えていただければありがたいと思います。</p>
<p>高山会長</p>	<p>どうもありがとうございました。いろいろな意見が出ましたが、このスローガンで言葉を足すとか、引くとか、もっとシンプルでいいとか、その辺の御意見はいかがでしょう。</p>
<p>鴨田委員</p>	<p>大阪府庁の鴨田と申します。少し感想のような話で恐縮ですが、私は検討案を拝見させていただいたときに、スローガンというか、市の進んでいく方向性がすごくうまく代弁されているなと思って拝見しておりました。人口減少が市だけでなく、府、日本全体で進んでいく中で、いかに活力をもって持続的に成長を目指すかというところでは、4つぐらい観点があると思っておりまして、その1つが持続的な社会シス</p>

テムをいかに構築していくかということ、その前提となるのが誰一人取り残されないという社会をどう築くかということ、あと人口の観点では、定住人口だけでなく交流人口をいかに増やして行って、にぎわいを創出するかということだと思っております。その意味で、持続可能ということでは、この「未来」の言葉がやはり代弁していると思いますし、誰一人取り残さないということで行きますと、この「みんな笑顔」はここで書かれておりますように全員がまちづくりの主人公。つまり、全ての人が主人公になることが、誰一人取り残されないということだと思いますし、そのにぎわいをつくっていく意味での定住人口が「住みやすいまち」、交流人口で「つどう」という言葉が表現されているということで、非常に方向性としては、4つの区分でわかりやすいのではないかなというのが、私の感想です。なお、先ほど先生がおっしゃられましたように、言い換えますと、こういった4つの方向性はどの市でも考えられることということでもありますので、もう少し柏原市さんらしくというか、市民の方が共感できるようなワードが1つか2つ入っていれば、より完成度の高いスローガンになるのではないかと感じました。以上でございます。

高山会長
寺田委員

ありがとうございます。いかがでしょうか。

市議会の寺田と申します。今、おっしゃっていただいた意見のように、今のこのスローガンは、全て、それぞれ象徴をするものであるということは納得も理解もするわけでございますが、5次になりまして、柏原のイメージということではちょっと薄いかと思えます。市民の皆さんに第4回の総合計画もそうですし、目標は何かということを考えていただくとほとんど記憶に残っていないです。あくまで、このテーマというものは、皆さんが目指すということで、すぐ覚えていただくというか、この2030年の目標は、柏原はこれだという、柏原をイメージするというか、単刀直入に表現するキャッチコピーであってほしいと思います。ほかの内容のところは随分と検討いただいたと思いますが、今回、総合計画の検討ということでございますので、意見として、今、この挙げていただいております「未来へと みんな笑顔で 生き活きつどう 住みよいまち 柏原」となっていますけれど、ここに羽曳野を入れても腑に落ちますし、藤井寺を入れても腑に落ちます。もっと覚えやすい、記憶に残る、市民の皆さんが全体的に柏原の30年度はこれだと思っただけのような、集約するようなものが必要ではないでしょうか。最初、担当の方から一つの案にあったという、笑顔と柏原をつなぐなど、いろんなことで思いがあると笑顔にはならないので、もっとわかりやすいこともあったらいいと思いました。提案していただく中で、いろんな議論をしていただいて、いろんな案があったと思うのですが、一つだけ書くのではなく、こういう案もありましたと教えていただくと、もっと議論が進むのではないかと思います。この辺を、もう一度御検討いただけたらと思

<p>高山会長</p>	<p>ますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>難しいですね。要するに、私たちの暮らしてというのは、総合型、結合型サービスで成立するので、いろんなものがないと生活が成り立たないですけれども、そうなってくるとこういうテーマにどうしても寄っていくという側面がありますけど、一方で柏原に暮らすという、ここで足をつけるということはどういうことなのか、ということも入れることができれば、とても素晴らしいことですから、例えば未来と合わせて歴史があるのであれば、「過去との関係を繰り返す 未来へ」とか、何かそういうところで少し昔の話を出すような言葉等があれば、出していただけますか。</p>
<p>阪本豊子委員</p>	<p>民生の阪本です。よろしくお願ひします。これを見たときに、さつき寺田委員がおっしゃったように漠然としています。どこでもこれは使えるのではないか。何も、柏原らしさが入っていませんね。それで、前は国分の大阪教育大学前駅から高速に上がるのところ、高速の入り口に入るところに、「学問のまち 柏原」でしたか、そういう看板がありました。今は、それが消されていますけれども、そのときに全然知らない方が、高速の料金所のところで停まったときに、「えっ、学問って何なのかな」とみんなが思いますよね。そしたら今は、教育大も入りましたし、ここはそもそも学校とか学問に対して力を入れている市なのかと感じられると思います。今、大学も誘致されて複数ございますし、もう一つ、奈良からずっときている歴史の街道がありますよね。そこを打ち出すのであれば、「歴史あるまち」とかそういう形で出せると思います。ただ、市としてどれをメインにこれから持っていけるのか。そうすることによって、また学校教育のすごくいいということがあれば、若いお母さんたちは、大変学校の教育に対しては熱心なので、「じゃあ、柏原市の方に移転していこか」とか、いろんな意味でそう思われると思います。だから、本当に漠然としたのではなくて、目標一つ、そういう形で周知といいますか、人口を集めるための形になるような感じで何か入れていただけたらと思います。</p>
<p>高山会長</p>	<p>ありがとうございます。では、一度他の章の話もありますので、そちらの各論の方を少し説明していただいて、各論を踏まえながらも一度この章に帰って、今度はもう一度考えるということで、先に進みましょう。その各論の中で皆さんも、スローガンのことを頭に浮かべながら、聞いていただいて、例えば人が増えるという場合でも、子どもを産んでもらって増やすのか、外から来てもらって増やすのかとか、いろいろな考え方が多々ありますので、そこをどのように柏原市は捉えていくのかということをもう少し具体的なイメージを持てるように、先に進みたいと思います。</p> <p>では、事務局の方、次の説明に進んでいただけますか。</p> <p>(事務局 「第5次柏原市総合計画基本構想(検討案)」第2章及び第</p>

高山会長	<p>3章について説明)</p> <p>ありがとうございます。それでは、今の2章、3章の説明を受けまして、最初の副題自体のテーマを含めて、議論をまたしていただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
田井中委員	<p>何度もすみません。テーマになりますが、スローガンです。最近、市長が事あるごとにおっしゃるのが、「選ばれるまち 柏原」とおっしゃっています。それを「未来へと みんな笑顔で 選ばれるまち 柏原」と、「選ばれる」ということは、いろんな面で満足されるということにつながると思います。これは、いいスローガンになると思って聞いていました。一度、御検討ください。それから、それに関してもう一つ。私、大阪府関係のボランティアとして、高齢者の方のワークショップなどに出させていただいている、あちこちの老人会で進んでいるところの、いろいろな研修に参加させていただいています。今はどこでも、婦人会も、子ども会も、まして老人会も、老人が増えているにも関わらず退会が多くなっています。ごそっと抜けてしまいます。なぜだろうかと思っていました。このまちづくり第3章で、安全、安心に暮らせるまちです。これこそが、市民が主役の一番大事な骨子です。しかも、立場が違う、環境が違う、そして世代も違う、ボランティアグループの参画もあります。柏原市はこういうところが縦割りというのか、完璧に孤立化しています。ですから、「未来へと みんな笑顔で」と書いているけど、この未来に対して、過去に戻ってのつながりが、今は欠けています。人類は進歩していますが。ですから、子ども会と壮年会だとか青年会も、今は交流がありません。進んでいるところは、やはり行政もきちんと入って、蝶番役をしてくれています。子ども会と老人会、婦人会と老人会、そういうところが相互につながってくれる。そういうところは生き活きして、お互いに切磋琢磨して、増えています。本当に柏原市よりも少ない人口でありながら、老人会の会員数がものすごい。生き活きしている。生き活きすることで、医療費が抑制される。そういうことで、行政は、大変少子化にお金がかかります。高齢者の場合は儉約しないといけません。高齢者が元気になるということはお金が節約できて子どもに回せます。だから、そういうところに、やはり行政は率先して仲介してもらってほしいと思います。あるいは、現場を知ってほしい。そういうこともあって、今日は高齢者で一つ言いたいと思っていました。私は、大阪府の府労連になりますが、後期高齢者をもう既に過ぎています。でも、若手委員になります。だから、そういう意味でも、やはり進んでいるところに関する研修をして、自分に入れて、自分に刺激を受けて、それをまた下の方に拡散していただけたらと思います。何度もすみません。</p>
高山会長	<p>ありがとうございます。未来に向かうとしても、大切なものは守りながら、やはりきちんと未来に向かわなければいけませんので。</p> <p>そのほか、御意見どうでしょうか。御自由に、こんな言葉を入れてい</p>

	<p>ただきたいとか、こんな言葉が欲しいとか、何でも結構です。一定の方向性は、今委員会で決めたいと思いますので、どういう方向がいいのか。スローガンの扱いについても。今、見ていただいた体系にどんどん落とし込まれていきますので、細かい具体的なことは下部にどんどん入っていきますから、一定グランドデザインの方は大きくてもそれなりに対応していけるかと思っておりますので、言葉が多い方がいいとか、少ない方がいいとか、それも含めていろんな御意見いただければと思います。いかがでしょうか。</p> <p>一つ、方向性として、いろんな御意見があると思っておりますけれども、端的にスパッと行ってしまって、ある種とてもコピー的にしてしまうのがいいのか、それとも、説明的に、本日の資料に書いてあるのは、ある種説明的になっていると思っております。未来に向かってどうかという感じの方向性にするのか、柏原市らしさが出るような言葉をちりばめて少し長くてもいいから、柏原市らしさとか、もっとみんなが協働するといったものにするのか。その辺の御意見、いかがでしょうか。スパッと「何かのまち 柏原」でいいと言うようなものもあるかと思っております。その辺はどうでしょうか。</p>
重森副会長	<p>先ほどの方向性ですけれども、「選ばれるまち」非常にしっくりきたなと思えました。ただ、それだけでは何が強みなのかわかりにくいので、第4次のように副題のところに柏原の特徴という、それをある程度項目がわかりやすいように書くのはいかがでしょうか。ただ、やはりスローガン。今、こうやって提示されていますスローガンは、目標と照らし合わせても大体マッチングはしていますけれども、ただ柏原をほかのまちに置き換えてもつながるといふところになると、もう少し柏原が目立つものをスパッと行ったほうが、市民全員がわかりやすいんじゃないかなと思えました。以上です。</p>
高山会長	<p>いかがでしょうか。いろいろな考えがありまして、わかりやすく語るというものもありますし、言葉が多過ぎれば、サブタイトル、サブテーマをつければいいだろうという話になります。本文を短く言うのはいかがでしょうか。サブタイトルの方に幾つか言葉が出れば、本文の方はもっと柏原市がバンと出るような「優しい自然で育まれる人」など、そんなものでもいいわけですね。柏原の魅力が出るようなもので。いかがでしょうか。もしよろしければ、もう少し時間をとれるのかどうか、そのあたり、事務局の考えを少しお聞きしたいと思います。</p>
事務局	<p>今、この場で御意見を出していただくことについても、たくさんの委員の皆様から御意見いただいたものについて、委員の皆様各自がこれはどうか、あれはどうかと考えながら、次の意見というのを出されるということになりまして、時間も必要かと思っております。そして、もちろんこの回で全て決めるということで検討案を出させていただいているわけではございませんので、この後一定期間、御意見をいただく時間を作らせ</p>

高山会長	<p>ていただき、そのいただいたものをもとにまた事務局で練らせていただいて、再度御提示をさせていただくという形で考えさせていただけたらどうかと考えます。</p> <p>ありがとうございました。若干、1月17日あたりぐらいまでは意見を交流する、メールを中心とした形で、集まるということは難しいかもしれませんが、意見交換ができる時間はございますので、そういう形で、今日に結論を出すのではなく、もう少し意見を皆さんに出していただきながら、今日は17日に向けての方向性が少しでも見えていけばいいかと思います。ざっくばらんに「安全、安心に暮らせるまち」とか、個別の問題に関しましても、もっとこういうもの入れてくれとか、これよりもこっちが大事だろうとか、そういうものを出していただくことでまた基本のテーマの内容が見えてくるかもしれませんので、それを少し時間がございますので、何か自由に言っていただければと思います。いかがでしょうか。この言葉、絶対入れてくれとかでも構いません。柏原はこれだから、この言葉は抜かせない。絶対、ブドウは入れようとか、そういうものでも構いません。何かありましたら、出していただけたらと思います。</p>
重森副会長	<p>お言葉に甘えて、この言葉というところで、ここの資料の3ページの「生き生きつどう」のところで、魅力的な自然環境に自転車産業、不動産産業を活かすというのがありますが、ここに先ほどちょっと話で出させていただきました学問です。この6万から7万人のまちに大学が2つあるというのも含めて、そこもある意味18から20代の世代がたくさん入ってきて、出て行く。出て行くのを抑えることで人口が増えるということも含めれば、おそらく全体につながるような話になってくると思いますので、学問というところも、教育でしょうか、入れていただくと非常にいいと思いました。</p>
高山会長 新屋委員	<p>ありがとうございます。そのほか、いかがですか。</p> <p>将来像の言葉の中で、こういうのはいけないのかもしれませんが、柏原の原を笑うという字に変えてみるとか、そうすると「みんな笑顔で」というのとつながるし、柏原の人しか読めないかもしれませんが、柏原らしいかなと思います。</p>
高山会長	<p>どの言葉、どの漢字を入れるかでイメージが変わってきますからねそういうのも重要かと思います。</p>
山下委員	<p>質問ですが、『生き生きつどう』のところに「魅力的な自然環境や自転車産業、不動産など活かし」という記載がありますが、第4次総合計画までは、自転車産業という文言はあまり見受けられなかったと思いますので、どういうところを指すのかということをお聞かせいただきたいのと、これを記載することによって、どういう効果というか、どういうことを望まれているのかということをお聞かせいただきたいです。</p>
事務局	<p>産業と書いてしまっていますので、私も今、指摘されて、少し分野的</p>

<p>高山会長 松尾委員</p>	<p>に特定しすぎていると思いました。自転車については、柏原市にメーカーというのがパナソニックサイクルテックという大きなメーカーが1つ、中小ではありますが、今、ふるさと納税でも出しています東洋フレームというメーカーがあります。こういった自転車メーカーがあつて、なおかつ自転車でここへ来られる、柏原を知っておられる方がかなりいらっしゃると聞いております。実際、大和川の堤防沿いというのはサイクリングロードになっておりますので、それで自転車産業というのは自転車をつくる部分だけではなく、自転車で来られる方などを含めて、リビエールの前、リビボードと書いてあつて、そこへ自転車で来られた方がいろいろ掲示板を書くなど、あの辺りが集合地点になるなどしている。そのようなメーカーがあるという強みはあると思っております。そのことによって、自転車といえば柏原という部分も出てくると思い、この自転車産業という言葉を入れさせていただいております。この辺は現状で、実際に来られるサイクリストの方に関しても、魅力だということがありましたので、入れたということです。</p> <p>そのほか、いかがでしょうか。</p>
<p>高山会長</p>	<p>市民委員の松尾です。少し若い世代からの意見としましては、こういうスローガンを考えるときは、これは私が思っていることですが、やはりスローガンを市から出されても、市民としては「ふーん」で終わることが多いので、何か市民を巻き込むような公募みたいなものがあつた方が良かったのではないかと、すごく思っています。まだ時間があるのであれば、例えばですけどSNSとかであれば、そんなに時間を要さなくても募集はできると思いますし、参考だけでも若い人の意見とかが聞けるのでいいのかなと思いました。</p>
<p>高山会長 事務局</p>	<p>ありがとうございます。何か今の御意見に対してコメントとかありましたらお願いします。</p> <p>コメントではありませんが、今おっしゃっていただいたように、確かに市民の方にこういったものができてから意見を照会する機会、意見を伺うという機会を作るべきだったのかなと思っております。これに関して、事務局としてできることがあるのかは、この場でしますというお答えをできませんので、できることを模索したいと思います。今おっしゃっていただいたようにSNSを使うなどして、できるのであればその辺を考えて行けるかと思えます。もう一点、意見を伺うという部分で言いますと、ワークショップやアンケートの中で、特にアンケートでは単語として、柏原市のキーワードを幾つか出していただいております。第1回の審議会の際に説明させていただきましたアンケートの中で出ていた文言、言葉、柏原市をイメージする言葉というものをできるだけ拾わせていただいたというのが、事務局として意見を収集した部分ではあります。ワークショップというのは、子育て世代のワークショップも含めて全体的に見渡して、スローガンに使えるということや意見として多かつ</p>

<p>高山会長 畠山委員</p>	<p>た言葉というのをできるだけ拾い上げた形にはしております。</p> <p>時間も経ちましたが、どうしてもということがあれば、お願いします。</p> <p>柏原市労働組合協議会の畠山と申します。私も「生き活きつどう」というところに、産業ということが書いてありますので、ここの説明のところ、岡村製油など、そういった昔からある産業もありますので、このサイクルテックなども、もちろんそうですけれども、そういった企業も入れておいて欲しいと思います。</p> <p>それともう1つが、このいわゆるフレーズですよ。ここで皆さん、これだけ一生懸命議論されているわけであって、私は20年間柏原で勤めていますが、第4回に関しては、委員にならせていただいたので知った話ですが、それまでほとんど知りませんでした。ですので、せっかくここまで議論して決めることですので、このフレーズやそういったことについての発信については、もう少し決まった上でもよろしいですが、発信する方法というものについても、検討していただけたらと思います。</p>
<p>高山会長</p>	<p>ありがとうございます。そうですね、作りっぱなしではいけませんね。市民の皆さんに浸透する必要があります。そのほかはよろしいですか。大体の御意見はいただいたということで、本日の会はこの辺で切らせていただきます。</p>
<p>早川委員</p>	<p>先ほども学校の話がありましたが、私は他市へも寄らせていただいています。柏原はなぜ産官学があれだけ上手く行っているのかというような言葉も聞きます。それで、どうしてだろうということで、何をやればいいのか、迷いというかわからない部分が多いということで、自分自身では思っていますが、ある程度様々な団体がございますので、そういう人達と物事を行うことが大事であったり、いろんな団体があるということをもう少し頭に入れて、コラボレーションできれば良いという感じもしています。明確には私も分かっていないのですが。</p>
<p>高山会長</p>	<p>柏原だからつながりがいっぱいあって、それがエネルギーになっていくと思います。足元を見ながら、資源を掘り起こして行けたらいいと思います。</p> <p>もし特にあれば、1月17日までは意見を受け付けます。ぜひ皆さんから、一人1個は何か言葉を出していただいて、学生の宿題を出すように恐縮ですけれども、ぜひゆっくりとお正月考えながら過ごしていただければなと思います。1月17日までにすみませんが、よろしく願います。</p> <p>本日の議題は終わりますので、事務局にもう一度お返しします。よろしく願います。</p>
<p>事務局</p>	<p>6 その他</p> <p>本日は、長時間にわたる御審議ありがとうございました。次回は次年度の4月から5月ころに（基本構想案の審議及び基本計画案の審議）を</p>

予定しておりますので、御参加をよろしく申し上げます。なお、基本計画案については、ページ数が相当数となりますことから、事前に送付させていただきましたものを御一読いただき審議会において意見をいただけますようお願いいたします。

それでは、第2回柏原市総合計画審議会は閉会といたします。ありがとうございました。

7 閉 会